

記 入 日 2012 年 1 月 15 日

1. 概 要

実践団体名	災害実行委員会 “ぶちボラ YP 勇気”		
連絡先	083-928-4783		
プランタイトル	学生による地域をつなぐ防災プロジェクト		
プランの対象者※1	6、10	対象とする 災害種別※2	1、3

※1 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

- 1、大学生が地域住民の防災意識の状況・防災への取り組み状況(避難場所等災害時の体制)について知る。
- 2、防災知識を地域住民に伝え、防災への備えと意識を根付かせる
- 3、災害時に備え、地域住民と学生及び地域住民同士のネットワーク作りを行う

【プランの概要】

地域の防災意識を高めることを目的としている。そのため、まず地域と学生の関係作りとして避難訓練や小学生を対象とした防災キャンプ、地域サロンなどの地域活動へ参加をした。そして、防災意識を高めるための手段として防災豆知識 BOOK を作成した。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- 1、災害時、大学生が災害ボランティアとして動くための基盤となる情報の収集ができる。
- 2、学生と地域住民との情報交換で得られた防災知識を基に防災豆知識 BOOK を作成。
- 3、災害時の大学生の支援体制の基盤づくり。
- 4、災害時に助け合える地域住民の支え合いの関係作り。
- 5、地域住民の防災意識を高められ、災害時各々で対応できる力を身につけることができる。

2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	年間計画の作成		11日避難訓練反省会
5月			
6月			
7月			
8月		レジュメ作り、印刷	11～12日宮野小キャンプ
9月	中間報告会		
10月			
11月		アンケート作り	18日地域サロン「すみれの会」への参加 アンケート行う
12月	BOOKの下書き (原本)の完成		11日アドバイザーさんからBOOKに関するアドバイスをいただく 16日熊坂地区避難訓練
1月			
2月			11日活動報告 18日フォーラム
3月		事前打ち合わせ	18日上折本地区避難訓練 25日西恋路地区避難訓練

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	防災キャンプ
実施月日（曜日）	8月11日（土）～12日（日）
実施場所	宮野小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	11日（土）13:00～12日（日）
プログラムの カテゴリ、形式※4	4、総合的な学習の時間
活動目的※5	1、遊び、楽しみながらの防災
達成目標	子どもたちが家庭へ帰っても防災について考えられるようにすること。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	非常用持ち出し袋の中に入っている物の紹介 自分の家庭オリジナルの持ち出し袋のチェックリストをつくってもらえるような仕組みづくり。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ぶちボラ YP 勇気メンバー5名 避難用持ち出し袋 非常食 レジュメ（災害時気をつけること、持ち出し袋には何が必要か）
参加人数	50～70人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 自分の家の場合だったら・・・？と考えて何が必要か、家族で話し合うきっかけ作りが行えた。 【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	避難訓練
実施月日（曜日）	3月18日(日)、25日(日) 12月16日(日)
実施場所	各公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	9:00～12:00
プログラムのカテゴリ、形式※4	16、避難・防災訓練
活動目的※5	5、災害を疑似体験
達成目標	災害時を想定して避難訓練を行い、災害時に備える
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前打ち合わせ(別日) ・避難所でオリエンテーション ・自宅に戻った後、避難訓練 ・反省会
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ぶちボラ YP 勇気メンバー
参加人数	30人～50人
経費の総額・内訳概要	0
成果と課題	<p>【成果】 地区により世帯構成員の年代層が異なり、同じ宮野でも求められる避難時の留意点が違うことが分かった。</p> <p>【課題】 本当に非難しなければならない時、援護者がすぐに要援護者の元へ行くことができるのか不安という声があがった。</p>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	地域サロン「すみれの会」への参加
実施月日（曜日）	11月18日（日）
実施場所	地域交流センター
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:00～12:30
プログラムのカテゴリ、形式※4	2、ワークショップ
活動目的※5	10、その他（サロン活動の参加と防災意識アンケート調査）
達成目標	地域の方との関係作りと防災に関するアンケート調査
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	サロンで企画された活動と一緒に交流を深め、最後アンケートを取らせてもらった。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	アンケート作り ぶちボラ YP 勇気メンバー3名
参加人数	15名程度
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 地域の方の防災に対する意識を知ることができた。 【課題】 防災豆知識 BOOK を用いてどのように防災意識を高めていくか
成果物	アンケート

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>～その場だけのプログラムで終わらすことのないように仕掛け作り～ 地域との「つながり」作りの手段として、防災豆知識 BOOK の作成をした。BOOK を作成する上で、情報収集、ニーズ調査をしっかりとし、地域に求められる防災に関する知識を BOOK に盛り込めるようプログラムを進めた。また、日ごとの計画表を作成し、プログラムが円滑に進められるよう工夫した。ただ、計画表通りにプログラムは進行せず、遅れた計画をいかに進めるか、ということが苦勞した点である。 そして、自分たちらしさ、大学生らしさなど個性や得意なことを上手く活かす活動、そして新たな自分たちの可能性を見出す点でどのように行動していけば向上できるのかということに苦勞した。</p>
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>防災豆知識 BOOK を作成するにあたり、地域にはどのような災害が起こる可能性が高いのか等①地域の特徴、地域住民及び大学生の防災意識や防災に関する興味、関心など②地域等のニーズ、これを含め BOOK をどのように構成していくかなど③BOOK の内容など以上 3 点についてアンケートや専門機関等に情報提供をお願いし、学生自身も文献等で学習することでしっかりとアウトリーチが出来たことが工夫した点である。苦勞したのはアウトリーチに時間を割けすぎ、BOOK のページ作成がギリギリになってしまったことである。 そして、BOOK ももちろんであるが、地域の方々と交流する折に学生が「何をつたえるか」という点を考慮する点で苦勞した。</p>
<p>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</p>	<p>BOOK を活用して地域住民との交流を図る活動を未だ実践していないため、苦勞した点を書くことが難しいが、これから実践する上で工夫したいのは BOOK をテキストのように活用することである。BOOK には自己記入欄や事前に知っておくと便利な豆知識が載っている。特にコラムのエッセンシャルオイルやツナ缶ランプの作成など、実際に行い、防災を考えるきっかけ作りや防災には様々な形があることを知ってもらい、楽しいワークショップから命を守ることの大切さを学ぶ工夫をしたいと考えている。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	山口県立大学	災害時の大学の対応について情報提供していただいた。
保護者・ PTAの組織	宮野小学校のPTA	小学生を対象とした防災キャンプの見守りを行った。
地域組織	宮野地域のいきいきサロン 「すみれの会」	サロンへ参加し、交流しながら防災に関するアンケートを取った。
国・地方公共団体・ 公共施設	宮野地域交流センター	小学生を対象とした防災キャンプの開催 宮野の防災に関する情報提供
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>成果として得たことは、防災豆知識 BOOK を作成することで、地域住民や大学生のニーズを把握することができた。地域住民の防災への意識が災害に対して何かしなければならぬとは思いますが、行政がどのような対応をしていて、何をすればいいのか分からないという方が多いように感じ、情報の過疎化が高齢者を中心にあることがわかった。そこで、BOOK では地域の防災対策や防災の基本的なことを盛り込み、宮野地域に住む人々に合わせた BOOK を作成することができた。また、災害・防災に関する情報等の知識を深めたり、ぶちボラ YP 勇気のメンバー同士のつながりを強めることが成果として挙げられる。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>4 月頃に年間計画を立てていたが、大幅に変更してしまった。変更した時点で再検討し、新たに計画をたてる必要があった。また、一つ一つの活動の後にモニタリングを行い、自分たちの活動を振り返ることで、今後必要なこともより見えたはずである。</p> <p>全体を通じて、メンバーが全員社会福祉学部ということもあり、地域の方々と交流しつながりをひろげることには長けていたと思う。BOOK を紙に書き出し、コンピューターで打ち込む作業に苦勞した。大学の中には文化創造学科という創作関係に長けた学科があり、組織や学部を越えて連携が出来たらより良いものになったと思う。なので、今後また BOOK を作成する折には計画的に、かつ幅広い視点で取り組めるようにしたい。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>防災豆知識 BOOK をサロン等で活用し、地域住民との関係作りをする。また、BOOK もこの 1 回だけでなく、情報やニーズの新たな発見等があるので、第 2 版、第 3 版と受け継いでいき、ぶちボラ YP 勇気の活動の 1 つとして続けていきたい。BOOK を作成する上で先輩から後輩にぶちボラ YP 勇気の活動や防災に関する思いが続いていけるようにしていきたい。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。



小学校防災キャンプの様子



避難訓練の様子

(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)